

なるほど!! 放射線

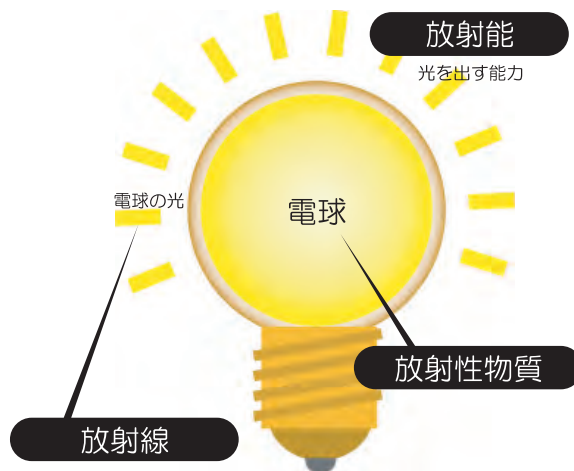
原子力と密接な関わりのある放射線について
授業の科目別に4回シリーズでわかりやすく解説していきます

第一回 理科の授業

放射線とはどんなもの？

放射線とは、目に見えない「光線」みたいなもので、原子核が壊れるときなどに放出される高速の粒子や高いエネルギーをもった電磁波のことを言います。

放射線は五感には感じませんが、体にたくさん受けると悪い影響があります。この放射線を出す物質のことを「放射性物質」といい、電球にたとえると、放射性物質が電球、光が放射線、光を出す能力が放射能といえます。

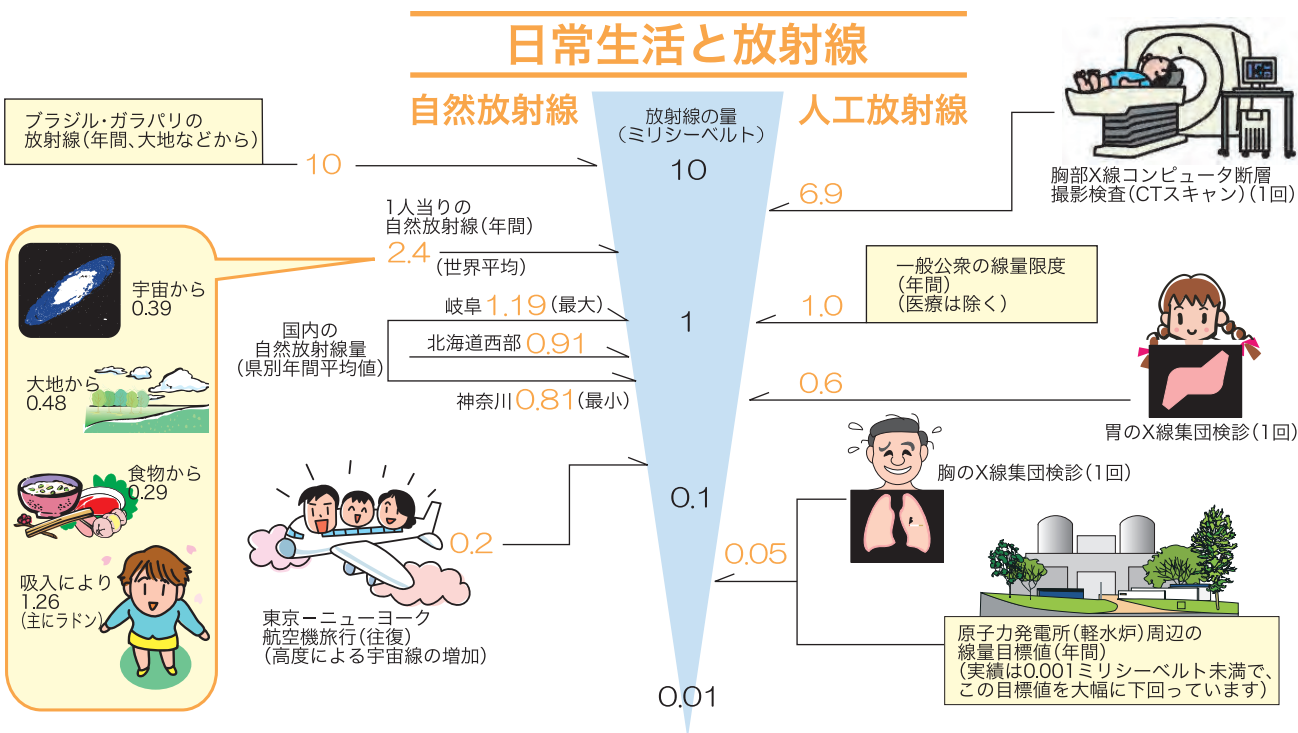


放射線ってどこにあるの？

私たちは、日常生活の中でどこにいても宇宙や大地からの放射線、そして体内に摂取された食物を通じて放射線を受けています。これらは自然放射線といいますが、その量は地域によって差があります。

また、医療用検査、治療などに使われる放射線、工業や農業の分野で使われる放射線、原子炉で作りに出される放射線などを人工放射線といえます。

私たちが自然界から受ける放射線の量は1人あたり年間2.4ミリシーベルトになります。



出典：資源エネルギー庁「原子力2003」他

シーベルト (Sv)：受けた放射線の量を表す単位。体への影響の度合いを測る物差しとして用いる